

研究No. (記載不要)	— —
-----------------	-----

平成 25 年度配分 研究成果発表報告書(実績)

研究名	文化芸術による地域資源発信事業の研究				
配分を受けた 特別研究費	特別研究費				5,800 千円
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏 名	共同研究者
	デザイン学 部	デザイン学科	教授	磯村 克郎	他 2 名
発表の方法	1 紀 要 名 称: 文化芸術による地域資源発信事業の研究			号 数	第 15 号 ( 139 頁～ 146 頁) (2015 年 3 月発行)
	2 学会等での発表 学会等名: 浜松市 創造都市推進会議 (企画調整部企画課)			発表日	平成 26 年 6 月 18 日
	3 その他 発表の方法: 市内旧文泉堂書店にて展覧会実施 展覧会冊子 B5 版 144 ページ 1000 部制 作、配布			発表日	平成 26 年 3 月 1 日 ～23 日

※ 学会等での発表及びその他の場合は、学会報等発表を証する資料を添付すること。

※ 配分を受けた翌年度の 3 月末までに提出

(研究の目的等)

本研究では、浜松市内の市民による自発的な地域活動を抽出し、その情報を編集・視覚化した冊子の制作と展覧会（Projectability～この街で起きていることはどうしておもしろいのか？～）の開催を行ない、これらによって、地域資源としての市民活動の発信を行うことで、これからの市民社会における地域での活動の現場を視覚化し、活動のしかたの提案をすることが本研究の目的である。

(研究の実施方法等)

地域の NPO と連携して、浜松地域の 14 の市民活動に対する調査・参加・協働を実践し、調査情報の編集の過程で、共通する課題や個々の特性を抽出し、活動の視点や専門性の構造の視覚化（3DCG）を行った。また、その分析成果を基にした展覧会や冊子の制作過程では地域の若手のデザイナーや建築家と協働して、市民活動の様相をアートワークとして表現した作品制作や会場構成を行った。

(得られた成果等)

市民活動の調査と活動への参加、協働を行うなかで、統計や鳥瞰的な調査ではなかなか見えてこない情報の収集ができた。活動の現場は、手づくりの素朴さと個性に加え、外部人材の導入による創造性を持ち、誰もができる可能性と社会を変える可能性を予見できるものであった。対象とする市民活動は行政の施策と違い、マスタープランはない。また、現状ではそれぞれ個別の活動であり、他からはなかなか見えづらい活動である。そのような市民活動が展覧会や冊子によって一堂に会し、社会からの認知・相互交流・可能性を感じた市民の動機形成への契機になることは、活動の活性化と主体的な市民社会に向けて意義深いことと考えられる。

展覧会では 557 名の観覧者があり、そのほか報道、冊子 1000 部の配布、浜松市の創造都市推進会議（企画調整部企画課）でのプレゼンテーションなどで情報発信を行った。